

# 令和7年度学校評価を受けて

令和8年2月 山形県立山形豊学校

## 【はじめに】

保護者の皆様、お忙しい中、学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。今年度の結果を次のとおり報告します。(項目ごとの点数など詳細は別紙のとおりです。)

### 1 学校評価アンケートについて

(1) 実施時期 令和7年12月

(2) 回答者 児童生徒(小学部以上23名) 保護者 25名 (うち寄宿舍保護者5名)  
教員 37名 寄宿舍指導員 11名

(3) 採点方法と評価基準

- ・ 各項目について「そう思う」は+2点、「おおよそそう思う」は+1点、「あまりそう思わない」は-1点、「そう思わない」は-2点とし、平均点を求め、年度ごとの比較をしました。
- ・ 各項目の達成度を評価するため、「そう思う(+2点)」と「おおよそそう思う(+1点)」の合計が8割以上をA、6~7割をB、4~5割をC、3割以下をDとしました。

### 2 アンケート結果について

(1) 学校関係者評価

#### ① 児童生徒

学習について、新しいことを学んだりできることが増えた(項目1)で100%、授業の復習や宿題・課題に取り組んだ(項目2)、自分から分からないことを調べたり聞いたりした(項目3)、で95%の児童生徒が「そう思う・おおよそそう思う」と回答しました。特に、項目1の新しいことを学んだりできることが増えたと項目3の自分から調べたり聞いたりする項目の平均値が大きく向上し、昨年度の課題であった自主的・主体的な学習態度が育まれていること、できるようになったことを実感していることがうかがえました。

生活について、思いやりをもった行動(項目4)、仲間との協力や互いに高め合う関係(項目7)で100%の児童生徒が「そう思う・おおよそそう思う」と回答しました。ルールを守って生活できた(項目5)で「そう思う・おおよそそう思う」は、昨年度の85%から96%に向上し、自分の目標に向かって一生懸命取り組む(項目8)は昨年度の80%から100%と大きく向上しました。また、教職員への相談のしやすさ(項目10)も90%から100%と回答し、平均値も上昇しました。学習や生活など場面に絞った目標などに対して、その都度、児童生徒の意欲を高め実行する力を育てる働きかけをすること、児童生徒の目標に向かう姿勢・態度を丁寧にフィードバックすることの重要性を感じたところです。

引き続き、学習内容の基礎的・基本的事項を身に付けたり、それを活用したりする力を育成することに重点を置き授業改善に努めるとともに、自主的・主体的な学習態度を育む指導に努めていきます。また、友達同士で関わったり共に活動したりする機会を今後も大切にし、社会性の育成に努めていきます。

#### ② 保護者

すべての項目について92~100%の保護者より「そう思う・おおよそそう思う」の回答を頂きました。学校・学部の目標や経営方針の説明(項目1)、たよりなどを通して学校や子どもの情報を伝えること(項目2)、聴覚障がいにも配慮した分かりやすい授業(項目4)、読書活動の充実への対応(項目5)、生活の規律に関する指導(項目6)、進路に関する情報提供や指導(項目7)、部活動等の充実(項目10)、PTA活動(項目11)では昨年度より平均値が上昇しました。

寄宿舍での生活については、全ての項目について100%の保護者より「そう思う・おおよそそ

う思う」の回答を頂きました。

**安全に配慮した対策（項目8）、子どもが生き生きと活動する学校行事（項目9）**は、「そう思う・おおよそそう思う」の割合が90%以上の項目でも昨年度より平均値がやや下がっています。老朽化する校舎への対応や予測困難な時代への対応については子どもたちの安全を守るために長期的な課題と捉えております。常に現状を把握し、施設整備については県教育委員会に相談しながら対応して参ります。子どもが生き生きと活動する学校行事については、在籍幼児児童生徒数の減少に伴い、実態に応じた取組みを進めておりますが、子どもたちの持っている力を発揮できる活動を今後も工夫して参ります。

令和7年度は、東北豊教育研究大会のテーマ「よく考え主体的に学ぶための授業づくり」を学校研究のテーマとして、学校全体として授業改善に向けた授業づくりを進めてきました。今後も学校研究を通して分かりやすい授業作りを、自立活動研修を通して障がいに応じた指導を、進路指導研修を通してキャリア発達を促す指導を充実するよう努めてまいります。また、引き続き子どもたちや保護者の相談・質問について、機会を捉えて話を聞き共通理解の基に指導をしていくよう努めていきます。部活動の充実については、県のガイドラインに基づき任意の活動になって2年目となります。部活動の在り方について地域移行の動きがありますが、豊学校として部活動の目的を踏まえ持続可能な活動の在り方を考えていきたいと思っております。家庭からの送迎などのご協力、ありがとうございました。

## (2) 教職員による自己評価

**聴覚障がい配慮した分かりやすい授業（項目2）、生活の規律に関する指導（項目3）、進路に関する指導や情報提供（項目4）、読書活動の充実（項目5）、たよりを通して伝えること（項目9）**は、保護者の結果と同様に平均値が上昇の傾向が見られました。

ただし、**学校・学部目標や経営方針の説明（項目1）**では、平均値がやや下がっており、分かりやすい説明や周知の工夫や改善の余地があると教職員が自覚していると考えます。

**幼児児童生徒の声や様子を受け止め、適時に指導・支援を行っている（項目11）**と児童生徒の質問項目にある**教職員への相談のしやすさ（項目10）**は共に上昇し、100%でした。**教員間や寄宿舎担任などとのコミュニケーション（項目15）**が活性化することが、子どものことについて話し合う職場作りになり、ついでに教職員への相談のしやすさにつながると思っていますので、こうした意識を継続して参ります。

**読書活動の充実（項目5）、主体的に活動できる学校行事（項目10）**は幼児児童生徒の発達段階や国語の力といった実態に応じてそれぞれの学部で工夫した取組みに努めてきました。読書習慣が身に付いたり読書の幅が広がることについては、継続して取り組むよう努めます。

学習指導・生徒指導・障がいに応じた指導のバランスのとれた専門性向上を図るよう、学校の組織づくりと運営に努めて参ります。

## 【おわりに】

いただいた評価を踏まえ、教育目標「豊かな言葉と自立の力を育む」を達成するよう、皆様に信頼され子どもたちのもてる力を最大限伸ばす学校づくりに努めてまいります。

今後とも、様々なご協力をお願いいたします。